

平成30年(2018年)11月27日

第6学年の保護者の皆様

札幌市立開成小学校

校長 中村 義則

平成30年度 全国学力・学習状況調査の調査結果と傾向について

向寒の候 皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、第6学年児童を対象に4月に「全国学力・学習状況調査」が行われ、10月にその結果(個人票)を一人一人に配付いたしました。

また、先月、札幌市教育委員会より札幌市全体の調査結果と傾向が示されました。これを受けて、本校では調査結果の分析を行い、本校の成果や課題の方向性を示しましたので、別紙の通りお知らせします。

今回の「教科に関する調査結果」(1～3p)については、本校の平均と全国の平均を比較・考察したものです。特に、全国平均に比べ下回っている事項については、これから指導の充実を図っていきます。

また、「生活習慣や学習環境に関する調査結果」(4p)については、今後、学校や家庭での指導に生かし、改善を図っていきたいと考えています。特に、ご家庭での生活習慣が学習に対しても大きな影響を与えます。今一度、ご家庭で、生活習慣や宿題・家庭学習への取組などについて話し合ってください、課題がある場合は、改善に向けてご協力をいただけますようお願いいたします。

保護者の皆様におかれましても、今回の調査の趣旨をご理解いただき、本校の教育活動への益々のご協力をお願いいたします。

<教科による調査結果>

【国語】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び概要】

主として「知識」に関する問題（A）

□「話すこと・聞くこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

□「書くこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

□「読むこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

□「言語事項」

・全国平均と同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

□「話すこと・聞くこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

□「書くこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

□「読むこと」

・全国平均に比べ、下回っている。

●相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを事例などの例を挙げて話すこと。

●自分の想像したことを表現するために、文章全体の構成を考えること。

●目的に応じて、必要な情報を捉えること

●学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと。

●慣用句や敬語など、適切に使用すること。

●目的や意図に応じて、質問の意図を捉えること。

●目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くこと。

●推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える。

●目的に応じて文章の内容を明確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。

「話すこと・聞くこと」

○話し合いの場面で、その目的や意図を捉え、得た情報や知識を関係付けながら、自分の考えをまとめ、発言できるようにしていく指導の充実。

「書くこと」

○書いたものを読み合う活動を通して、「書き手の考えが明確か」「表現の曖昧さはないか」など視点をはっきりと決めて、適切な助言が出来るようにしていく指導の充実。
○相手のことを想像し、必要な情報を選択し、文章全体の構成・内容を考える指導の充実。

「読むこと」

○目的に応じて、文章から「何が必要なことか」を捉える学習を行ったり、日常的な生活の中で読み取ったりする機会を増やし身に付けていくような指導の充実。

「言語事項」

○学習した漢字を繰り返し練習し、国語だけではなく、他の教科や日常的な生活の中でも読んだり、書いたりする機会を増やしていき、身に付けていくような指導の充実。

【 算 数 】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び概要】

主として「知識」に関する問題（A）

□ 「数と計算」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「量と測定」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「図形」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□ 「数量関係」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

□ 「数と計算」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「量と測定」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「図形」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「数量関係」

- ・全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。

- 1にあたる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している。

- 小数の除法の意味について理解している。

- 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。

- 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができること。

- 折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる。

- 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる。

- 示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる。

「数と計算」

- 乗法や除法の式、小数の除法の意味を、日常生活における具体的な操作、判断と結び付けて考えていく指導の充実。

「量と測定」

- 量的感覚を養うために、予想したり、実際の物体を使ったりして考えていく指導の充実。

「図形」

- 合同な図形を敷き詰められたものから多様な形を見つけたり、敷き詰めたりして、具体的な操作をしながら実感の伴う指導の充実。

「数量関係」

- 日常生活の場面から問題を見出し、課題を解決していくために必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、適切な判断をしたりできるような指導の充実。

【 理 科 】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び概要】

(A区分)

□ 「物質」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「エネルギー」

- ・全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが、やや下回っている。

(B区分)

□ 「生命」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

□ 「地球」

- ・全国平均に比べ、下回っている。

- ろ過の適切な操作方法を身に付けている。

- より妥当な考えを作り出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる。

- 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。

- 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している。

- 人の腕が曲がる仕組みを模型に適応できる。

- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。

- 堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。

「物質」

- 様々な実験結果を比較して、自分で根拠をもって話し合いをしていく指導の充実。

「エネルギー」

- 回路を流れる電流の流れ方に対して、予想を基にして、実験の方法を考えたりする指導の充実。

「生命」

- 人の体のつくりや仕組みについて、実際に模型を用いながら、考察したり、実験したりするような指導の充実。

「地球」

- 日常生活の場面から問題を見出し、実験結果を基に話し合うことができるような指導の充実。

<生活習慣や学習環境に関する調査結果>

学習面の質問事項から

<学習状況>

○「新聞を読んでいる」「テレビやインターネットでニュースを見る」と回答した子の割合が全国に比べて高い。

→世の中で起こっていることなどを新聞・インターネットなどの媒体から手に入れることができる環境が整っていて、興味を示していることが分かる。

●今までの学習において、「自分で考え、自分から取り組んでいた」「自分の考えがうまく伝わるよう工夫していた」と回答している子の割合は全国に比べてやや低い。

→自分の考えをうまく表現することができなかつたと考えている子が多い。

<教科>

○「算数の勉強が好き。」「理科の勉強が好き。」と回答した子の割合は、全国に比べ高い。また、「理科の勉強が大切だ。」と回答した子の割合も全国に比べて高い。

●「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。」と回答した子の割合は、全国に比べて低い。

→学習に対して、意欲的に取り組み、その勉強が大切であり、自分のためになっていると考えている子が多い。しかし、授業の中で、自分の考え方が分かるようにノートに書いたり、日常生活の中で関連付けて考えたり、活用したりする習慣がついている子はまだ少ない。

生活面の質問事項から

<学校生活>

○「自分にはよいところがあると思う。」「将来の夢や目標を持っている。」と回答した子の割合は、全国に比べて高い。また、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した子の割合も全国に比べて高い。

●「学校のきまりを守っている。」と回答した子の割合は全国に比べてやや低くなっている。

→友達とのかかわりを大切にし、人の役に立ちたいという優しい気持ちをもった子が多い。ただ、きまりやルールを守るという規範意識については、低い傾向がある。

<基本的な生活習慣>

●「朝食を毎日食べている。」「毎日同じ位の時刻に起きている。」「毎日同じ位の時刻に寝ている。」と回答した子の割合は、全国に比べてやや低い。

→寝たり、起きたりする時間が不規則だったり、朝食を食べずに登校したりしている子がやや多い。

<宿題・家庭学習>

○「学校の授業の予習や復習をしている。」と回答した子の割合は、全国に比べてやや高い傾向がある。

●「家で学校の宿題をしている。」「家で、自分で計画を立てて勉強している。」と回答した子の割合はやや低い。

→家で学習する時に、予習や復習を主にしている子の割合が多いことがわかる。その反面、計画的に学習することが定着していないために、宿題などを忘れてしまうことがあると考えられる。

今年度は、4月に全家庭に配付しました「習慣づくりのススメⅢ」をもとに、ご家庭での学習・生活習慣づくりにしっかりと取り組んでいただき、大変感謝申し上げます。

学習面では、各教科、意欲をもって取り組み、進んで発表・発言する姿も見られます。一方で、ノートに書いたり、発表したりという表現に苦手意識をもっている子も多くいることが分かりました。以前から進めていますが、普段の学習の中で、自分で考えまとめ、相手に伝えることを各学級で取り組んでいきます。

また、生活面でみると、お家での毎日の学習習慣が定着してきている子が増えてきているようです。ただ、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着については、まだ十分という結果には至りませんでした。生活習慣と学校生活は親密な関係にあります。前日に寝不足だったり、朝ごはんを食べていない子の中には、本来の調子が出なかつたり、保健室で休んだりする子もいます。子どもたちの学習環境をきちんと整えていくためにも、正しい生活習慣を身に付けていくことが大切です。

これからもご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。